

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(全学科)
使用教科書	教育出版『書道Ⅰ』				
副教材等	なし				

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ① 漢字の書、仮名の書
古典に基づく基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆との関係。字形・全体の構成。意図に基づく表現の構想と工夫。
- ② 漢字仮名交じりの書、篆刻
表現と用具・用材との基本的な関係。漢字と仮名の調和した線質の表し方。字形、文字の大きさと全体の構成。目的や用途に即した形式と表し方。意図の基づく表現の構想と工夫。
- ③ 鑑賞
優れた古典作品の鑑賞
書の基本的表現や美しさの鑑賞を中心に優れた古典を学び、それらをもとに書表現技術を習得する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み ・学習の記録（進捗記録、自己評価、相互評価、鑑賞カード） ・用具用材の取り扱い ・製作作品の提出 などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み ・学習の記録（進捗記録、自己評価、相互評価、鑑賞カード） ・用具用材の取り扱い ・製作作品の提出 などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み ・学習の記録（進捗記録、自己評価、相互評価、鑑賞カード） ・用具用材の取り扱い ・製作作品の提出 などから、評価します
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名	授業領域 と時数	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4月	書之美と書の学習	6	・書写と書道 ・用具と用材 ・姿勢と執筆法 ・文字について	6	用具用材の取り扱い 学習の記録確認
5月	楷書の学習 「九成宮醜泉銘」 「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 「牛欄造像記」 「鄭義下碑」	3	・楷書の表現と鑑賞	3	学習の記録確認
		3	・楷書の用筆法	3	作品提出確認
6月 ～ 8月	行書の学習 「蘭亭序」 「風信帖」 (日本の書)	16	・行書の表現と鑑賞 ・行書の用筆法	16	学習の記録確認 作品提出確認 取り組み
9月	県競書大会課題	10	・コンクール出品	10	作品提出確認 学習の記録確認
10月 ～ 11月	篆刻の基本と落款 印製作	6	・篆書の特徴を学び一字雅印を製作する	6	作品提出確認 学習の記録確認
12月	漢字創作作品	10	・漢字創作作品を作成する	10	取り組み 作品提出確認
1月 ～ 2月	仮名之美と漢字仮 名交じりの書之美	4	・仮名の基本的な表現方法の理解 (単体・連綿・変体仮名・散らし 書など)	4	作品提出確認
		4	・運筆・用筆の違いによる様々な書線の変化及び 自分の意図にあった用具用材を用いた基本的 表現方法とその変化の理解	4	取り組み 作品提出確認
3月	漢字仮名交じり書 創作と作品の鑑賞	8	・文字の余白の関係、紙面構成のバリエーション 等全体構成を考えた表現法	8	学習の記録確認
			・自分の思考や感動を表現できる語句を選び用具 用材、表現方法を工夫して自分らしい作品を制作 する。		作品提出確認

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み ・学習の記録 (進捗記録、自己評価、相互評価、鑑賞カード) ・用具用材の取り扱い ・製作作品の提出
--

7 担当者からの一言

<p>一生涯にわたり伝達・意思表現する文字を古典を通じて、表現手法を確立できれば嬉しいことです。</p> <p style="text-align: right;">(担当：島村 弘)</p>
--